

## デジタル・イメージング技術部会 講演要旨

開催日：2017年3月7日（火） <2016-4 ①>

テーマ：「幻の大絵馬は白黒写真から いかによみがえったか」

講演者：木下 悠氏（凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 凸版アイデアセンター）

関東大震災による焼失から100年近い時を経て、推定復元という形で現代に蘇った葛飾北斎筆「須佐之男命厄神退治」。これは、残された白黒写真を写真科学や歴史資料、伝統技法など様々な視点から読み解いていくことで彩色などを推定したものである。写真科学的な試みとしては、明治時代の撮影技法を解き明かし、北斎の用いた絵具や技法がどのように白黒写真化されたかを可能な限り究明することで、絵具の推定の資料とするとともに、彩色結果の妥当性を評価する指針に用いる、ということを行った。貴重な美術作品を写真として残すことで、永く次世代へ引き継いでいこうとした明治時代の意志と、その高い技術があっこそ実現したものである。また、ビッグデータや人工知能など、白黒画像からの彩色の復元には次世代の技術が期待されているが、それを美術作品に応用するにあたって、どういった情報が写真から得られるかということを示すものにもなったと考える。